



かごしまの地域を元気に! /

共生・協働の地域社会づくり

鹿児島市

NPO法人 NPOデフNet.かごしま

聴覚障がい者が 暮らしやすい社会へ!



加治木まんじゅうなどの人気商品が並ぶ「ぶどうの木」

NPO法人「NPOデフNet.かごしま」は、自らも聴覚障がい者である澤田利江さんが理事長を務め、自身の経験を生かし、国内では珍しい聴覚障がい児の学習塾(デフスクール)や九州では初めての「日本語対応手話」ではない「日本手話」*が学べるワークショップ事業など、聴覚障がい者の暮らしやすい社会環境づくりのため、手話というコミュニケーションを活用した事業を行っている。

「聴覚に障がいのある『ろう者』の子どもたちに自分の将来に夢と希望を持ってほしい。耳が聞こえなくても、子どもたちには秘めた可能性があり、それを最大限に伸ばすお手伝いができたら」という思いから平成9年に始めた手話による学習塾が活動の原点。設立当初は数名しかいなかった生徒も、今では増加傾向にあり、教えるの中には県内の大学に進学している者もいるという。

ここでは、「ろう文化」の普及にも努めている。ろう者のコミュニケーションでは、視覚や触覚を重視するため、健常者にはなじみが薄い、人を指差したり軽く肩をたたく行為がよく行われる。また、日常で使う「日本手話」は、文法が日本語と全く違い、先に結論を伝える英語に近い文法表現を用いている。こうした「ろう文化」への認識は薄く、理解不足も多いのが現状だ。

「健常者にも『ろう文化』を理解してもらい、ろう者が手話という言語に誇りを持ち、

障がいの有無にかかわらず共に助け合い支え合える社会にしたい」と澤田理事長。

また、就労支援のため、3年前に開設した重複障がい者作業所「ぶどうの木」では、商品や味の開発に通所生が積極的に取り組み、看板メニューである加治木まんじゅう、クレープやふくれ菓子なども販売している。夕方になると学校帰りの学生や子ども連れの客でにぎわい、年々ピーターも増加している。

昨年は、安定した事業運営のため、県の「かごしま共生・協働サポート融資」を受け、澤田さんはこれを機に今後の事業拡大につなげたいと考えている。

澤田さんをはじめスタッフの方々は、コミュニケーションが手話という環境のなか、ろう者が自立した生活を送るための支援活動のスペシャリストとして、笑顔を絶やさず日々の活動に取り組んでいる。

※日本手話は、日本語とは全く違う文法体系を持つ言語であり、日本語の語順に合わせた「日本語対応手話」と呼ばれるものとは区別されている。ろう者のほとんどが日本手話を使って生活をしている。



「日本手話」の個人レッスン

理事長からひとこと

ろう者を理解し、聴者と共に楽しく生きる社会づくりを目指して頑張っています。「違い」をまず知ることから始まるので、お互い歩み寄っていきける機会を少しでも多く作っていきたいと思っています。



澤田 利江 理事長



近くの聾学校の授業が終わると、子どもたちが学習のために通ってくる。

共生・協働の地域社会づくりやNPO法人に関するお問い合わせ先

- ◎共生・協働推進課(県庁9階) ☎099-286-2241
 - ◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) ☎099-221-6613
- 関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。